



こんにちは ひぐち英明

347号 2018年12月16日 連絡先：日本共産党左京地区委員会 Tel 761-6341
左京生活相談所 Tel 781-6622

ホームページ：

京都市への要求書提出に向け 予算要求懇談会開く



来年度の京都市予算に対する要求書をつくる際に、多くのみなさんから要望をお聞きするための予算要求懇談会を開きました。

いただいたご意見を反映させ、京都市に提出しました。



暮らしと福祉守れと左京怒りの告発集会

暮らしと福祉守れと左京怒りの告発集会
全くなみ前例のないことでは、市自身が国に対して「保険料を値下げするための国負担を増やして欲しい」と要望していることと

国民健康保険会計で54億円の黒字 高すぎる保険料の値下げこそ

昨年度は国民健康保険会計が54億円の累積黒字となりました。京都市はこの黒字を保険料の値下げに使わないどころか、20億円

近くを一般会計に繰り入れる提案を11月議会に行いました。これは、国民健康保険会計という財布から、なんでも使える（大型事業にも使える）一般会計という財布にお金を移し替えてしまうというものであり、全く前例のないことです。

も相反する行為です。
■ 共産党以外の全議員が賛成してしまっ

共産党は、国民健康保険会計のお財布から出た黒字は、高すぎる保険料の値下げに使うべきことを主張。さらに、大幅な保険料の値下げを行えるよう、国に対して、公費負担を1兆円規模で増やすよう求めよ、と迫りました。この要望は全国知

事会も行っている要望です。ところが京都市は、国に対する要望すら行うことを拒否。こんな議案を、共産党以外の全議員が賛成し、可決してしまっ

市バスの民間委託で矛盾広がる

路線の維持・拡充に責任を

市バスは現在50%

を民間委託しています。コスト削減が目的です。民間バスの運転手さんを低賃金で働かせることが前提となっており、矛盾が広がっています。

労働条件が厳しくなるため、過労が原因とされる事故も起こってきました。その上、今度は運転手が確保できないということも

委託しているバス会社2社から撤退の意向が示されました。このままでは、市バス路線の維持ができるかどうか危ぶまれる事態となります。

京都市は、安い賃金を労働者に押し付けることはやめ、労働条件の改善と、市バス路線の維持・拡充に責任を持つ必要があります。

写真トピックス



↑市民交流スペース オープンのつどい

京建労左京支部50周年祝賀会で、賃金を底上げさせる決意を表明→

ひぐち英明 ホッと・コム

次女（中学2年）がある時期悩みを抱えていました。思春期ですから、いろいろな悩みを抱え、解決しては、また悩み、ということを繰り返しています。

しばらくしてから、次女が妻のママ友に会った時に、「もう大丈夫？」と何人かから声をかけられました。次女は家に帰ってから妻に「なんで人に話したんや」と怒りました。「みんなが心配してくれたんや」と妻が言うので、「私は心配され慣れていないから、なんて返事していいかわからない」と次女。「心配され慣れていない」との感覚は予想外の反応です。一人で悩まず、みんなに心配してもらおうのは大事なことですし、その経験が生きて行く上での安心感につながると思います。

さて、今、生活に困窮する方が増えてしまっています。困っている時に相談できる場所が身近にあることは、安心感につながります。ところが、その相談窓口であるはずの区役所で、相談件数が減っている、との報告がありました。具体的には税金の納税相談の件数です。

市民の暮らしが格段に向上しているならまだいいのですが、貧困と格差が広がる中で、相談件数が減っているというのは、相談しにくい仕組みとなっているからにほかなりません。さらに市長が、「相談件数が減っているから、区役所の税の相談窓口をなくす」という提案をしていることは、許し難い話です。